

現代トランペット界のカリスマが語る

インバル&マーラー との出会い



ルツェルン祝祭管弦楽団終身首席トランペット

ラインホルト・フリードリッヒ

Reinhold Friedrich

昨今のマーラーの演奏を聴くと批判的にならざるを得ない。演奏自体が間違っていたり、あるいは品がなかったり、または誇張され過ぎる。マーラーの音楽を、まるで両手の指先から脂がしたり落ちるような解釈で演奏させる指揮者がいる。マーラーの音楽は小さなフレーズの中に「痛み」がある。マーラーのこの心の痛みを「見世物」にしてはいけません。

ラインホルト・フリードリッヒ

通訳：竹沢絵里子 取材協力：関西トランペット協会（KTPA）、嶋田明（KTPA）、菊本和昭（N響首席トランペット）

イディッシュ語色濃厚な フランクフルト放送響

——パイパーズ誌に登場して頂いたのは今から18年前のことでした。フリードリッヒ（以下F）あれは来日4回目の時でした。今回はもう26回目。

——日本とのそもそもの関わりは？

F 1985年頃、エリアフ・インバル指揮のフランクフルト放送響でマーラー交響曲全曲を録音した時が出会いでした。DENON録音チームがフランクフルトにやって来ました。発売されたCDはヒットチャートの上位を占め、金賞を3度受賞しました。これがきっかけとなり、フランクフルト響は「ユタヤ色が濃厚なマーラーを演奏するオケ」として世界に知られるようになったのです。他の指揮者やオケよりも、もっとイディッシュ文化（Jewishkeit、東欧系ユタヤの文化）を色濃く反映して演奏すると言われました。

——ユタヤ色が濃い演奏をするようになった理由は？

F インバルの影響もあるが、やはりスコアに「クレスマー音楽（東欧系ユタヤ音楽）のように響かせて」と書き込んだりするゲスタフ・マーラーその人に起因

すると思います。いわゆるドイツ音楽とは異なり、マーラーの音楽では小さなフレーズの中に「痛み」がある。インバルはこれを尊重したのです。

リヒャルト・シュトラウスの演奏スタイルは、マーラーと対峙する位置にあります。シュトラウスの音楽は書かれた通りに演奏するのが正しい、解釈からはあまり影響を受けない。マーラーの音楽は、オーケストラ全員で考えて作って行かなければならないので、二人の音楽は全く違う。

怖かったインバル

リハーサルでは、楽員たちがインバルからしよつちゅう叱られました。「こうじゃない、ああじゃない」と次から次へと注文を付けられた。私は、あのレコーディングの第1ヴァイオリン奏者になっただけはなりたくなかったな（笑）。インバルは私には大変優しくなかったが、奏者によっては厳しく当たることもありました。同じパッセージを100回も弾き直させたりしたんですよ（笑）。

あの頃、私と仲の良い友人のノイネッカー（マーラー・ルイス・ノイネッカー）がホルンセクションにいましたが、彼女は

あまりいじめられなかったな。彼女は指揮者にも堂々と文句を言う強い女性だった。こう言えるのではないかな？ 「インバルは彼女には優しくなかった。しかし彼女はインバルに優しくなかった」とね（笑）。

——録音時、フリードリッヒさんはおいくつだったのですか？

F 25歳頃でした。マーラーの交響曲全曲を演奏するのは初めてだったから素晴らしい名誉に思いました。だがストレスも感じました。でも素敵なストレスでしたよ。あのシリーズはリマスタリングされ15枚のCDセットで出ていると思います。「マーラー演奏解釈」が私の脳に刻み込まれたのは、まさにあの録音セッションの時でした。ですから、最近のマーラーの演奏を聴くと、どうしても批判的にならざるを得ない（笑）。演奏自体が間違っていたり、あるいは品がなかったり、または誇張され過ぎることがあるのです。マーラーの「心の痛み」というのはあくまで本物の表現であるべきです。「見世物」にしてはいけません。

マーラーとリヒャルト・シュトラウスと全く違う点は、マーラー音楽は最大限のリスクを背負って演奏しなければいけないということ。道幅の広いアウト

Profile
ドイツ・ワインガルテン生まれ。1986年ミュンヘン国際音楽コンクール優勝。カールスルーエ音大卒業。現代音楽からバロック音楽までレパートリーは広く、オリジナル楽器、バロックトランペットも駆使する。活動範囲も広く、2012年だけでも、ドイツ、スイス、オーストリア、イングランド、イスラエル、ボリヴィア、ブラジル、日本で演奏活動とマスタークラスを開く。世界一流のオーケストラやアンサンブルとの共演多数。2003年からクラウドディオ・アバド率いるルツェルン祝祭管弦楽団の終身首席トランペット。ルツェルン祝祭管弦楽団プラスアンサンブルの音楽監督。グラモフォン、DENONほかのレーベルから数多くのCDをリリース。カールスルーエ音大、広島のエリザベート音大客員教授。門下からは主要国際コンクール入賞者を輩出している。
www.reinholdfriedrich.de